

2008年度 第7回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

- 開催日時：2008年11月11日（火） 午後7時15分～9時15分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
- 出席委員：飯塚 睦、熊田博喜、坂口和隆、中曾根聡、瀧島喜重、安岡厚子
柳澤正樹、山下恭子、渡辺美恵<以上9名、敬称略、あいうえお順>
- 欠席委員：阿部靖子<以上1名、敬称略>
- 活動計画策定委員：白倉悦子<西東京市地域福祉活動計画策定委員会副委員長、敬称略>
- 事務局：丸木 敦（地域福祉課長）、中澤一郎（主事）、今林朝香（コーディネーター）
長山清美（コーディネーター）篠原保之（係長）

■配布資料

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告（10月）
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告（10月）
- 資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表（11月）
- 資料 4：2008年度第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
- 資料 5：西東京ボランティア・市民活動センターアクションプラン（案）
- 資料 6：2009年度西東京ボランティア・市民活動センター事業計画（案）
- 資料 7：2009年度補助金に関わる予算（案）
- 資料別紙 1：企業懇談会に向けての意識調査（案）
- 資料別紙 2：市民活動団体懇談会に向けての意識調査（案）
- 資料別紙 3：2008年度第5回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開会の挨拶

副委員長：委員長が別会議のため、30分ほど遅れるとのこと。その間、議事の進行を代わります。
週末の市民まつりも含めて、後ほど報告もお願いしたい。月次報告から始めてください。

1. 報 告 事 項

(1).西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

① 西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告（10月）

事務局：18日(土)軒下ふれあいバザー無事終了。天候良く来場者多数。マックスバリュ田無芝久保店のご協力をいただき閉幕した。29日(水)にぼらんていあ倶楽部の発送事務をボランティアを募って行なう。都立高校の奉仕活動の授業が連日動いている。訪問等で担当職員が動いている。24~26日、武蔵野大学の摩耶祭に参加。実習生にも協力いただく。市内小学校の総合学習福祉体験を多数実施。夏ボラの各市区町村担当者連絡会が開催される。ボランタリーフォーラムの実行委員会が開催される。その他、担当から事業を説明。

ボランティアのつどいは、今年で8回目。今年度はウォークイベントと地域活動の発表の場として開催する予定。目的は、ボランティア活動や市民活動に参加してもらうために西東京を好きになってもらうこと、地域に関心を持ってもらうこと、そのことで後々市民活動を考え、参加するきっかけにしてもらいたい。そのためにゴール地点には、すでに活動している団体などの紹介をしたい。2つ目として、西東京市に関心を持ってもらうことを挙げてい

る。誰もが参加しやすいウォークイベントに参加することで地域を好きになってもらいたいと考える。開催場所はゴール地点としていこいの森公園を考えている。スタート地点は検討中。雨天の場合は、ウォークは中止し、田無総合福祉センターで団体の紹介を中心に内容を変えて行なう。開催日は来年3月29日(日)。参加費等はとらずに無料でイベントを開催したい。次回の実行委員会は11月12日。細かなコースやゴール地点のイベントを検討する予定。

コミュニティビジネス研修会について。コミュニティビジネスに関する中間支援組織担当者の研修。講座の中身は、コミュニティビジネスを中心としながら、事務局フォローアップコースとなっていた。事務局の仕事の総点検といったイメージの研修となっていた。コミュニティビジネスの中間支援について、事務で担う経理・人的管理・渉外・プレゼンの方法・情報管理などの研修。最後は、実際に助成金の申請書を作り、プレゼンを行ない講師の評価を受けるロールプレイなどを行なった。場所は千代田プラットホームスクエア。

市民まつりについては、天気は今ひとつだったが、たくさんの売り上げがあった。目標は達成。ボランティア数名募りご協力いただく。ご来場の際にお立ち寄りいただいた方々に御礼申し上げます。

副委員長：各イベントで綿菓子販売があったようだが、売り上げはどのくらいだったのか。

事務局：市民まつりは1日500本販売。摩耶祭は2日で44,500円800本以上販売。マックスバリュは19,200円280本くらいを販売した。

委員：コミュニティビジネスについて、これからの市民活動の参考になったか。

事務局：講座の中でいろいろなヒントがあった。多くの人と知り合いになれたことが大きかった。受講者が、自分で創業された方、地域の商店街と一緒にやっている方、民間の市民活動センターから来ている方、NPOサポートセンターの方など、多岐にわたっていた。社協の方も若干いた。退職して事業を始めた方と話す中で参考になった。講座はコミュニティビジネスに特化したものではなく事務局機能の総点検であったので、別講座への参加でスキルアップが図れると考える。一番良かったのは、人脈が築けたことだと思う。

委員：市民活動団体としては、助成金の申請書作り、自分がやろうとする事業を相手にアピールする方法は興味があるので参考になることは教えてほしい。

副委員長：ウォークとは災害の時のものとは違うのか。

事務局：目的がないと歩けないかと思っているが、3月の終わりなので、桜の時期と合えば良いと考えている。お花を見ながら、参加していただきたい。普段ボランティアとか市民活動に関係のない方を引き出すことを考えている。

委員：どのくらいの距離を歩くのか。

事務局：先日調布のチャリティウォークに参加してきた。8キロ歩くと翌日は疲れが出てきた。多くの方が5キロコースをのんびり歩いていた。現在の案では、ひばりが丘駅から団地を周っていこいの森までを考えているが、それでも3キロくらいとなる。

副委員長：夏に山中湖のエコウォークに参加したが、ペットを連れて参加してきた。ペット可と書くのと引き付けるかもしれない。

副委員長：次にコーディネートの報告・11月予定をお願いしたい。

事務局：ボランティア紹介のなかに、総合教育の福祉体験のコーディネートが入っている。11月19日から高齢者大学の中でボランティア・市民活動センターが2回担当する。月末に市民

セクター全国会議に職員が参加。ボランティア懇談会について担当者から説明を行う。

12月10日(水)保谷活動室、13日(土)田無活動室で懇談会を開催する。08年から登録している方をお誘いしている。車椅子介助を交えその後懇談会を進めていく。定員20名にしているが、07年以前に登録の方も、受付の予定。

高齢者大学の1回目は枝見太朗さんの講演、2回目は実際にボランティア活動を身近に感じてもらうと考えている。

委員：高齢者大学はどこ事業なのか。

事務局：社協が市から委託を受けている。もので、年間で16回のコースになっている。富士町の福祉会館で行なう。

質疑応答後、各報告を終える。

副委員長：委員長が来られたので、進行を交代する。

2. 審議事項

(1).2008年度第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録(未定稿)について

委員長：第6回運営委員会議事録について、意見をいただきたい。

各委員から訂正箇所の指摘がある。

6 P 4 L	取り組みの中身を <u>つ</u> いて→中身 <u>に</u> ついて
1 0 L	福祉 <u>に</u> ニーズ→福祉ニーズ(1文字削除)
8 P 1 0 L	策定 <u>委</u> 長→策定 <u>委</u> 員長
1 5 L	説明が <u>気</u> →説明 <u>書</u> き
1 0 P 1 8 L	先 <u>の</u> →先 <u>に</u>
1 3 P 2 9 L	やや→や

協議事項から「である」調から「ですます」調になっている。

委員長：ケアレスミス部分は精査してもらい、確定稿としたい。

指摘された訂正箇所を修正し、2008年度第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録(未定稿)を(確定稿)とすることを承認する。

3. 協議事項

(1). (仮称)西東京市市民協働推進センターについて

委員長から、検討委員会の提言書についての説明がある。

委員長：大きな論点は、市民活動支援か協働の推進か、どちらに重きをおくかということ。

根拠として、市民との協働を推進する目的に検討委員会があったため協働に特化したいという意見と、広義の意味での市民活動を支えるという視点。両論併記ではなく、ぼかした形の提言になった。

ボランティア・市民活動センターとの住み分けについて、福祉のボランティア支援がどこまで入ってくるかが課題。

公設民営のアドボカシーについて。世論をきちんと作って社会的提案をつくっていくことが重要。

運営主体の変更について、一定の団体が続けることは大切だが、時限性も考えている。

運営機関について、運営委員会のガバナンスについてはしっかり押さえている。

センター長について、責任者としての資質を求めている。常勤であることが望まれる。

東京ボランティア・市民活動センターのセンター長は非常勤。その代わりに副センター長は常勤で毎日の切り盛りをしている。

スタッフについて、能力の高さを求めている。

評価方法について、きちんと評価をして、業務の内容によっては委託先の変更を可能にするもの。内部評価と外部評価と行政評価をきちんと受けることとなる。

全国的に見ても、答申の内容は引けをとらないと思う。

答申の中での質問ご意見をいただきたい。

委員：6P。運営方式について、市民の主体的な運営が保障される工夫という表現。抽象的だがどんな議論をしたのか。

委員長：すべての内容について、市が決めるのではなく、委託相手と協議をするという協定書での工夫を行なうことを市側に求めるもの。受託団体だけではなく、運営委員会の意見も市は聞く耳を持つことを謳っていくこと。

委員：保障される担保を一文に入れるべきという内容を入れたほうが良かったのではないか。

委員：民間非営利の法人について、組織として責任の所在が明確になっている法人とは。

委員長：責任主体が法人ははっきりしているので、そのことの確認。

委員長：議論のポイントについて、クリアをしておく論点を事務局から。

事務局：センター長について、市がどういう内容をだすか。金額と人選が可能なものか。

運営委員会について、どのようにしていくか考えていきたい。

また、今までの事業をどうするか整理を考えなくてはならない。今回の提言書は、ボラセンと中身がダブっているので問題はないかとも思うが、整理は必要。その3点が課題。

委員長：社協内での調整はクリアしているのか。合意は取れているのか。仕事の配分や職員配置については検討しているのか。

事務局：組織の体制は手をつけていない。市福祉部には来年度の補助金の要請をしているが、新センターに手を挙げることは了解してもらっている。とれたときの補助金は、その後に調整するとのことだった。

委員長：意見質問があれば出してほしい。

委員：センター長について、イメージは、先月の議事録を読んで、社協の中で人選と書かれていたが、福祉に逆戻りの感がある。

委員長：社協から遠い人は、社協＝市のイメージがある。同じ意見を外部からも聞いた。

事務局：内部の調整では、センター長にはまだふれていない。現実には新たに人を増やすことは難しい。これだけうたっている人を雇うには人件費もいるが行政がどう提示してくるかによる。

委員長：運営委員会については、事業をとっても、現在の運営委員会がそのままスライドすることは難しい。運営委員会の設置規則をみると一般の方は2期4年。今回、はじめて委員改選になる。委員長と委員は2期ずつ出来ることになる。改選の人が、新センターの運営

委員になることは可能かもしれない。

委員：透明性を高めるための運営委員会の設置だと思うが、運営体制の評価にもつながる。設置理念と目的を推進する人でなければいけない。協働という視点で、これまでの経験知見がなくなることは危険とも思われるが、これまでのDNAは受け継いでいきたい。実際には、運営主体が人選を行なうことになる。

委員：既存の事業について、数ヶ月かけてアクションプランをつくったが、社協がとったら今のボラセンの事業はなくなるのか。

事務局：市との調整になるが、福祉分野のボラセンは社協の独自の事業として残すことになるかもしれない。2つ共存になる可能性はあると思う。

委員長：新センターに、ボランティア支援・ボランティアコーディネートの機能が残らなければ社協内にその分野を残すことになるかもしれない。いろいろ考えると、新しいセンターの運営委員会が全くゼロから始まると事業に影響があるかもしれない。

委員：地域福祉課に今の係があるが、今後どうなるのか。

委員長：新センターを取れば係名の変更となる。事業の縮小分割の可能性もある。様々な可能性を考えなくてはならない。分割された時点で運営委員会は解散になるかもしれないし、2つの運営委員会があるかもしれない。

委員：仮に機能を新センターに移すとしても、時限的な事業だと、一定期間後に他団体に移ってしまうリスクが高いが、補償はどう考えるのか。

委員長：民間では当然だと思うので、社協だから補償をとという考えはない。宿命だと思う。そうならないようにしていくように考えていくしかない。

委員：永続的でないとすれば、活動計画の立場で言うとボラセンがないのはやりにくい。社協機能の中で組織していかないと計画が進められない。担保として福祉分野を受け持つ部署を残すことも検討はしているのか。

委員長：補助金を福祉部からももらえたら良いのだが、難しい課題。

委員：現在までのイメージを考えると、社協の中のボラセンの位置づけはしっかりしている。その実績は企画政策課にはもっていけない。新センターの機能には、福祉的ボランティアコーディネートは求めている。今までの社協のやり方、ボラセンのやり方ではいけない。

委員：機能をどう考えるかは課題。社会福祉分野の機能は残しておくべきと思うが、福祉部との関係も保っていたほうが良いとも考えられる。

委員：その機能を事務局はどう考えているのか。

事務局：理想は今までの機能の幅が広がると考えたいが、お金のつき方は現実には難しい。企画部は福祉的な事業だけにお金をつけるとは思えないので、調整が必要。

○プレゼン資料について

資料にあわせて、事務局よりプレゼンのたたき台を説明。事務局から、係の中で、実績、アクションプラン、マッチングなどのアピールを行なうことなどのポイントを確認するところまで係会議で話してきたことを説明。提案後、各委員から意見が出る。

委員：提言書にあわせてプレゼンを行なえば良いのではないか。

委員長：既に行なっている事業や成果が出ていることを提言書にあわせて提示すれば良い。プレゼンまで時間がある。機能とか理念について考えてほしい。

- 委員：地域福祉の枠を超えて提案をしてほしい。その感覚がないと取れないと思う。
- 委員：福祉は別枠で考えていかないといけない。
- 委員：これまで福祉分野のエキスパートとして見られてきたが、それ以外もやってきたことをアピールしてはどうか。
- 委員長：プレゼンの戦略として印象は大切。アピール方法も工夫が要る。だれがプレゼンをやるかも考える。
- 委員：NPO 企画提案ではパワーポイントは使わない。企画の中身ではなく、表現で差が出るため、使用はしていない。
- 委員長：演出は考えたほうが良いと思う。最近のプレゼンでは、パワーポイントは使わない。トラブルがあることも考えられるので避ける傾向。そして、もう古いという考えがある。物を出したり、漫才をしたりと演出を考えている。動画を使うこともある。また、数値を入れたほうが良い。いかに地域に密着しているかもポイントとなる。ローカルな部分と全国区の部分をアピールする。今回は教科書的な文章。具体的な事例で説明して、中身として物語があるかが重要。社会福祉分野以外での強みを出す。
- 委員：仮に取れなかったら、西東京ボランティア・市民活動センターの存続は訴えていくのか。そこも考えておいたほうが良い。
- 委員長：15分過ぎてしまった。予定されていた運営委員の改選については、次回に討議したいが、ご意見があれば事務局に伝えてほしい。
- 事務局：お詫びを。今回提出の予定であった、市に提出の補助金の再提出、企業の調査などは、次回に提出をしたい。お詫びする。
- 委員長：今回も報告にあったが、日にこだわらない報告事項は別に表記する形で次年度以降検討したほうが良いと感じた。これで第7回運営委員会を閉会する。

3. そ の 他

(1).次回運営委員会開催日程について

次回の運営委員会の確認を行う。

日時 12月9日（火）19:15～21:00

会場：田無総合福祉センター 第3会議室

以上をもって、2008年度第7回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し散会する。